

関西女子学生バスケットボール連盟
2021年度 第5回 理事会 議事録

日 時 : 2021年11月22日(月) 19:15~20:30
場 所 : ホテルクライトン江坂 レストラン
ZOOMによる遠隔会議(対面との併用)

出席者

[副会長] 野老稔

[理事] 丸岡信吾、荒木初広、西川幸穂、古本ルミ、畠岸邦枝、石橋将広、柳生志乃、坂井和明、玉井里英、市谷浩一郎、岸本里紗、村上なおみ、佐々木真弓、山本孝、佐藤亜紀子、平山楓子、真下香子、岩村裕美、早川亮馬、渡邊直裕、白井徹、東亜弓、今西正泰、玉城耕二

[学生委員] 浜守海、児島璃砂、松居里保、山木綾音、前川由衣、山下果歩、金崎睦、本庄由依、神田百代、坂口可恵、永吉芽衣

書記 : 山下果歩

古本総務部長から、出席状況の確認があり、連盟規約の要件を満たしており、本日の会議は成立することの報告があった。丸岡理事長を議長として議事進行することとした。

〈議題〉

1. リーグ戦の反省について

各部学生委員から、資料1にもとづき、順次説明があった。

① 総務部

浜守学生委員長より、資料に基づき説明があった。全体の反省について、コロナ感染対策により、リーグ戦の延期が続き秋季トーナメント大会の開催を中止したが、各大学からは秋季トーナメント大会開催希望が多かったため、試合数を増やすためにも前向きに開催準備を進めるべきだったと報告があった。

次に、コロナ感染防止対策の反省として、学連員の認識の違いから、クーリングベースの使用方法が試合会場によって異なっていた。今後も継続するのであれば、今回チームへの連絡が遅くなっていたので、チームの周知は遅くとも試合1週間前にメール配信をすること、また代表者会議の際に説明するようにすると、説明があった。

今後の連盟活動について、学連員・運営委員の人数不足が課題となるので、学連員の確保が必要となる報告があった。

② 広報渉外部

山下学生委員より、資料に基づき説明があった。反省点としてバスケプラスの返送期日に関する手配にミスがあった。今後は、大会延期の度に返却期日についてバスケプラ

スに連絡を入れ、最終確認を学連員 1 人で行うのではなく、複数人で行うように改善すると報告があった。今後の活動について、立て看板や配信画面に表示する広告を YouTube で商品化していくことを目標とするため、資料 4 を参考とし視聴者層のニーズに合わせた広告を企画・販売していきたい旨報告があった。

③ 競技部

松居学生委員より、資料に基づき説明があった。会場について、会場確保が進まず、4・5 部のリーグ戦再開が遅れてしまったので、今年度は公営体育館の予約を取るのが難しかったが、今後は年間予約が取れる体育館を探す。また、初めて使用する体育館で会場準備がスムーズに行かなかったため、事前打ち合わせの際、再度どこに何があるのか確実に把握しておくと報告があった。

④ 審判部

児島学生委員より、資料に基づき説明があった。タイムスケジュールの変更や急な割当変更などでやるべきことが多くなった時に作業の見落としがあったため、一つ一つタスク立てをして、見落としがなくなることを習慣づけ今後のためにもやるべきことのチェックシートを今年度中に作成する旨報告があった。

Web による審判講習会を実施することができた。第一回講習会をすでに開催し、残る 2 回の講習会でもより多くの大学に対して、審判について知っていただけるようしていきたい旨報告があった。

合わせて、荒木副理事長より、資料 6 に基づき説明があった。“JBA E 級審判員”養成と資格の取得の促進として、11 月 8 日(月)・11 月 22 日(月)・11 月 29 日(月)の 3 回分けて「審判を知ろう！の会」を開催し、学生審判・E 級ライセンスを一人でも多く増やし育成していきたい旨報告があった。

⑤ 財務部

古本財務副部長より、資料に基づき説明があった。チーム参加費 5,700,000 円（参加校：50 校）・広告料単価 2019 年度より 10,000 円 UP されたと報告された。パンフレット売り上げについて、チーム一括で 584,600 円、Web 一般で 99,000 円となり、パンフレット Web 販売は、好評でかつ定着してきたので、今後は会場販売と並行して実施していきたいと報告された。体育館使用料は、特に下部で高額となったため、体育館確保には連盟全体で取り組み、試合の組み合わせに見合った会場確保及び使用方法を再確認したい旨報告があった。

2. インカレ組み合わせ インカレ詳細について

丸岡理事長より、資料 2 に基づき説明があった。関西代表 5 校は 12 月 7 日(火)より、試合が開始されると報告された。また観客について最終結論は出ていないが、制限付きの有観客という方向で進められている旨報告があった。

3. 関西女子学連の一般社団法人化に向けた取り組みについて

西川副理事長より、資料 3 に基づき説明があった。関西女子学連は、法人格を持たず、権利や義務の遂行の主体となりえない、任意の組織となっている。一般社団法人化によ

り、権利義務の主体となることができ、組織運営の透明性が求められるなか、団体としての社会的信用が高まり、広告費獲得等は理解が得られやすい環境とするため、営利を目的としない人の集まり・団体と規定される一般社団法人にしていくか今後の課題として、総務部と広報部で検討を開始して、具体化する場合は理事会のもとに委員会を立ち上げるなどの対応を取りたい旨、報告があった。

4. インテグリティの周知徹底のための取り組みについて

荒木副理事長より、資料4に基づき説明があった。JBAはインテグリティ精神徹底の取り組みを強化しており、暴力暴言根絶を掲げている。関西女子学連でもインテグリティ推進本部を常設し、本部長を理事長とした組織を立ち上げたいと報告された。組織化をしていくにあたって、アドバイザーとして審判部長経験者(宮武氏、湯浅氏、山崎氏、田邊氏)の参与にご協力をお願いしていくと報告があった。

5. 強化部 日韓学生代表候補選手の推薦について

坂井強化部長より、資料5に基づき説明があった。インカレに出場するチームの中で、3年生以下の選手を選出していると報告された。12月末の週に白鷗大学にて合宿を行う予定にしており、坂井強化部長、佐々木理事、玉城理事が参加する旨報告があった。

6. 審判員育成のための“JBA E 級審判員”養成と資格の取得の促進

荒木副理事長より、リーグ戦審判部の反省資料と合わせて資料6に基づき報告があった。

7. 学連学生委員の増員要請について

古本総務部長より、口頭で説明があった。今年度卒業する4回生7名が抜けると、学連員が少なくなるため1部校は必ず1チーム1名選出、2部以下のチームもできるだけ選出していただけるように、バスケットボール経験者ではなくてもよいので学連員の増員を目指すようにする旨報告があった。

閉会にあたり野老副会長より挨拶があり、第5回理事会を閉会した。

以上